女医のいる泌尿器科に真性包茎を相談に行ったら、触られてるうちにフルボッキしてしまった話

この前、若くて美人の女医のいる泌尿器科に、真性包茎の相談に行った。正直真性包茎を治す気はあまりないのだが、合法的に若い女の子に包茎おちんちんを見てもらいたかったのだ。

待合室で番号を呼ばれるまで、少し落ち着かない気持ちで座っていた。自分の真性包茎ちんぽを若い女医に見られる。正直、緊張していた。

診察室に入ると、白衣を着た女医が椅子に座っていた。年齢は20代後半くらい。黒髪を後ろで一つにまとめ、薄い化粧で整った顔立ち。目が大きくて、唇が柔らかそうで、全体的に可愛らしい印象だった。

「今日はどうされましたか？」

声も優しくて、少し高い。

僕は少しためらいながら、真性包茎で包皮が剥けないこと、たまに痛むこと、将来的にどうしたらいいか相談したいと伝えた。先生は頷きながら、カルテにメモを取っていた。

「わかりました。では下着を下ろして見せてくださいね」

僕は女医の前に立ち上がり、勢いよくパンツを下ろした。ポロン。僕の恥ずかしい真性包茎チンポがむき出しになった。